

地方本州より一帶低ければなり、房總の界市ヶ坂より、彼地直下に見ゆるにてしるべし、
 〔安房概志〕海防

當國ノ形勢タル略○中所謂天險ノ地ナリ、室町氏ノ時、安房國ヲ指シテ、小囊國ト云、他邦出入ス
 スルノ口ヲ括故ニ古來ノ英雄一敗地ニ塗ルノ後、逃テ當國ニ入ル時ハ、敵人之ヲ追ニ及バズ、將軍
 頼朝、里見義實ノ如キ是ナリ、其勢守ニ利アツテ攻ニ利アラズ、然レドモ三面ニ海ヲ帶ルヲ以テ、
 海寇ノ預備ナクンバアルベカラズ、光孝實錄曰、仁和二年八月四日、勅令安房上總等國重警不虞、
 註曰、東南海寇ノ來侵ントスル、陰陽寮ノ占兆アルヲ以テナリ、里見氏ノ時ニ及テ、小田原北條氏
 ノ船兵屢渡海シテ、海岸ノ村落ヲ擄掠ス、依テ海岸防禦ノ令ヲ出セリ、里見氏軍令條ニ、南洲崎ヨ
 リ北明金ノ崎マデ、處々ニ遠見番所ヲ置キ、コレニ金太鼓ヲ設置、變アルニ臨ミ、是ヲ擊鳴スベシ、
 其聲ヲ聞付、近邊ノ百姓町人共、家財ヲ地ニ埋メ、老人妻子ハ山ヘ藏スベシ、何者ニ限ラズ、走來リ
 敵ヲ防ニ於テ、厚キ恩賞タルベキモノナリトアリ、是ハ模見氏相州ノ北條ニ相對シテノ防禦ナ
 リ、我神祖建豪以來、海内承平ナリトイヘドモ、猶深慮アツテ、相模及ビ當國ハ格別咽喉ノ形勢タ
 ルニヨツテ、文化七庚午二月廿六日、松平越中守定信、及ビ松平金之助後肥後守客衆幼年ナルニ依テ、名
 代保科能登守正徳ヲ營中ニ召シテ、異國船渡來防禦ノタメ、相模國浦賀、及ビ安房上總兩國ノ浦
 浦ニ砲臺ヲ設ケラレ、兩侯ニ引請仰付ラレダリ、後文政壬午三月兩侯御免アリ、浦賀御備場ハ、浦
 賀奉行ノ掛トナリ、房總ハ文武ノ才能アル者ヲ撰ビ、御代官ニ命ゼラレ、專ラ防禦ノコトヲ委任
 セラル、天保十四年八月四日、松平下總守房總ノ海防ヲ命ゼラル、後弘化四年、松平肥後守ニ命ゼ
 ラレ、上總富津ニ戍士ヲ置カル可キ由ナリ、因テ下總侯ハ富津ヨリ移リ、當國北條ニ於テ、新ニ陣
 屋ヲ取立テ、猶又處々ノ海岸ニ砲臺ヲ築カル、近隣ノ諸侯變アルニ臨テ、之ヲ救援スベキノ由ナ
 リ、是ハ皇國全體ノ防禦ニシテ、治ニ處テ武ヲ忘ザルノ、聖慮ヨリ出テ、南蠻西戎ノハテ迄モ我邦